

SNSや先輩から…入手容易に

大学運動部 広がる大麻

大学運動部で、大麻を巡る摘発が相次いでいる。6月には天理大ラグビー部や国士館大柔道部で部員の大麻使用の疑いが発覚し、7月には警視庁が専修大の元柔道部員を摘発。若年層への大麻の広がりは顕著で、昨年は30歳未満の若者が摘発人数の7割を占めた。専門家は交流サイト(SNS)などの誘因情報に警戒を強めるとともに、危険性周知の必要性を訴える。

(濱佳音)

6月13日未明、東京・ポリ袋に入った乾燥大麻多摩の路上。パトカーで約71名(末端価格約35万巡回中の警察官が、方向 田相田)が見つかった。指示器を不自然なタイミングで出し、塗装がはげで再逮捕された男は専修大の元柔道部員。大麻は1人の使用分としては多く、車内からは巻紙紙や計量器も見つかり、他人出ようとしな。大麻の尿検査で陽性反応があり、その後に、男とともみいでも再逮捕された。ほかの部員の関与は、現時点で確認されていない。

警察官が停車を求めたが、運転席の男は車外へ計量器も見つかり、他人出ようとしな。大麻の尿検査で陽性反応があり、その後に、男とともみいでも再逮捕された。ほかの部員の関与は、現時点で確認されていない。

後部座席や助手席から、警察官によると、昨年

の大麻関連の摘発のうち、20代は全体の約55%で最多、20歳未満が約19%と続いた。大学生は229人で、平成27年の29人からおよそ10年間で約8倍に増えた。入手方法をどのように知ったかなどの実態調査では、「インターネット

再発防止へ寮巡回、学生ケア

東農大ボクシング部	7・8・9月	大麻取締法違反容疑で4人逮捕
日大アメフト部	8・10・11月	大麻取締法違反などの容疑で3人逮捕
早大相撲部	11月	大麻取締法違反容疑で1人逮捕
天理大ラグビー部	6月	大麻取締法違反容疑で2人逮捕
国士館大柔道部	7月	複数人が寮内で大麻を使用した疑いで捜査中
専修大柔道部	7月	大麻取締法違反容疑で元部員1人逮捕

大学運動部での大麻を巡る摘発が相次いでいる

経田」が30歳未満で4割以上を占め、このうち9割以上がSNSを利用。それ以外では「友人・知人」が関与したケースが全体の6割を占めた。

依存症治療専門の「大石クリニック」(横浜・市)の大石雅之院長は、「大麻は依存性が高い」とした上で、「ネットの普及で入手が容易になっている。これ以上広げないことが重要だ」と警鐘を鳴らす。

大学運動部で摘発が相次いでいる要因として、大石氏は人間関係の「近さ」に着目。「犯罪組織や売人などから購入する」とは異なり、友人や知人、先輩など身近な存在を介することで、大麻を始める。「一歩目」のハードルが下がっている」と分析する。

警鐘鳴らす協会

運動部の活動停止といった処分にとどまらず、学生とどう向き合い、再発を防ぐのか。相次ぐ事件では、大学や関係機関の取り組みの実効性も問われている。

6月に柔道部員の大麻使用の疑いが発覚し、学生寮から吸引器具が見つかるなどした国士館大学は、教職員が学生寮を巡回し、個々の学生のメンタル面でのケアに取り組む。今後は寮生向けにアンケートを実施し、運営体制の見直しにもつなげる方針だ。

「薬物使用の罪の重さを伝えるようにしている」。運動部に関わる指導者や管理者、大学生を対象としたコンプライアンス研修会を定期的に開催する一般社団法人「大学スポーツ協会(UNIVAS)」の池田敦司専務理事は、その意義をこう説明する。

同協会では、薬物の危険性などを伝える5分間の動画や、過去の研修のアーカイブを活用している。池田氏は「薬物の使用は、学生のその後の人生に大きな影響をもたらす。薬物の危険性に関する意識を持ってもらうことが重要」と強調する。



専修大生田キャンパスの寮に家宅捜索に入る警視庁の捜査員ら

7月4日、川崎市多摩区